

東京都新宿区北新宿1-8-16
東京土建一般労働組合
電話03 (5332) 3971 (代表)
FAX03 (5332) 3972
発行人・編集人
吉川 豊

印刷部数11万1000部
(購読料は組合費のなかに含まれています)
(年間購読料 千八百円)
定価 五十円



東京土建のホームページ <http://www.tokyo-doken.or.jp/>

松竹の
新春浅草歌舞伎
尾上松也など、テレビドラマでおなじみの俳優も登場する予定です。組合員限定の特典価格でご案内します。締め切り間近ですので、お早めにお申し込みください。
(関連記事6面)

ストップ!ストップ!インボイス!

社会支える中小業者、文化、営みを壊すな

広がる運動、高まる声

東京土建は大木部長が訴え



左より、本部の大木税金経営対策部長、土橋常任、熊切書記次長、山本専従常任

インボイス制度中止の世論は確実に広がっています。11月6日の芝公園での物価高騰対策と消費税廃止、インボイス中止を求める集会には900人(東京土建64人、10月26日に日比谷野外音楽堂でフリーランスの労働者たちが訴えた「STOPインボイス」の集会にはユーチューブ参加を合わせて2200人が参加しました。

宣伝カーの上に登壇した大木一税金経営対策部長は、私たちの「嘆き」を聞いてほしいと切り出しました。建設業には一人親方、外注など年間1千万円以下の消費税免税業者が非常に多いこと、上位業者からインボイス登録か消費税分の値下げを迫られて苦

しんでいること、そして、増税でしかないインボイスにみんまで反対していることと力強く呼びかけました。全国中小企業団体連絡会の主催で10月6日に芝公園で行なわれたこの集会には北海道、沖縄からも参加があり、日本共産党とれいわ新選組の国会議員の他、様々な立場の人たちが駆け付けました。開業医、フリーライター、アニメーター、税理士、出版労働者、SF作家クラブ、農業従事者、自由法曹団など、多岐に渡る職種で社会を支えている人たちが「国は中小企業、文化、人の営みを潰す気か」との声が上げられました。集会後は田町駅まで3キロほどのコースをデモ行進しました。人通りの多い田町をリ



田町駅までデモ行進

スムに乗せたシュプレヒコールで「ストップ、ストップ、インボイスを響かせながら、2梯団でアピールしました。集会に参加した品川支部の富彌良則さんは「色々な業者が一堂に集まって、それぞれの想いを聞くことができた。インボイスが撤回されるまであきらめない。実施されてしまったら、撤回するような政府を作ればよい」と話してくれました。

秋の拡大月間は各支部の奮闘により、11月1日付で拡大数を3959人とし、3940人の目標を超過達成することができました。連日連夜の行動の先頭に立ち、奮闘されてきた支部

秋の拡大 3959人の到達で 11/1付で目標を達成

立ち、奮闘されてきた支部と拡大運動を結び付け、一人ひとりに声をかけてアンケートなどで現状の要求を聞き取り、仲間に寄り添う謝申し上げます。私たちは、コロナ禍2年の経験を活かし、仕事とく

開会前には、司会者ホイクシオン(声優の会)2人が美声で、次々に届くツイッター

フリーランス、集う 政治変えるチャレンジを インボイス



ツイートしたスマホ画面を掲げる会場と共に

さん(インボイス制度を考えるフリーランスの会、ライター)があいさつ。昨日(中止を求める)電子署名が10万筆を突破した。インボイス制度は税率を変えない消費税増税で、影響を受けるのはフリーランスや小規模事業者という組織の後ろ盾やネットワークのない人たち。このアクションは個人同士が個のままでも声を上げて政治を変える大きなチャレンジだと話しました。第1部では、立憲民主党(末松義規、落合貴之)、国民民主党(浜口誠)、日本共産党(田村貴昭、宮本徹、山添拓)、れいわ新選組(大石晃子)、社会民主党(福島瑞穂)の国会議員が連帯のあいさつに駆け付けました。

「今の日本は右翼、左翼に分かれているんじゃない。上と下だ。皆さんは、つまり下翼。インボイスは下翼狩りだ」(清水宏さん、スタンダップコメディアン)等々、さまざま観点で、パフォーマンスも交えながら、インボイス中止を訴えました。東京土建からは熊切健二書記次長が、各支部での学習会の取り組み、10月4日に行なった財務省要請行動などについて発言しました。

■食料とエネルギーを自給してまちづくりに取り組む42歳の社会起業家がいる。小田原かなごてファームの小田大和さんだ。持続可能な社会の実例を示したいとソーラーシェアリング(農営型太陽光発電)に取り組んでいる。「けんせつ通信員総会」に呼んで、講演を聞いた。

■小山田さんの田んぼの上には角度をつけたソーラーパネルがあり、米と電気を同じ場所で「作って」いる。日陰で稲が育つのかと思うが、植物には光の飽和点があり一定以上はいくら浴びても発育に影響はない。隙間からの日光でちゃんと育ち、その米で日本酒を作っているという。

■原発事故がきっかけに、結果として郵便局員を辞め、真正面からエネルギー問題に向き合った小山田さん。原発ゼロ・自然エネルギー100%社会は必ず達成できるという強い信念を持ち、そのためには右も左も関係なしに政治的発言もタブー視しない。

■最後に、持続可能な社会を作るために誰もがすぐ実践できることを2つ教えてくれた。一つは自然エネルギーを扱う電力会社と契約すること。もう一つは、地域に還元されるようなお金の使い方をすること。投票行動のみならず、日頃の小さな実践が、やがては日本の社会を変えるのだとの言葉にうなずいた。